



市職員らがわらで編んだこもを丁寧に巻き付けた11月5日、別府市野口原の別府公園



マツさあ冬支度

【別府】別府市野口原の別府公園で5日、マツの「こも巻き」が始まった。わらで編んだこもを、市職員たちがクロマツとアカマツ計510本に巻き付ける。作業は6日まで。

別府公園で「こも巻き」

「こも巻き」は、マツの天敵「マツカレハ」を駆除する昔ながらの方法。冬を越すため枝葉から地中に向かう幼虫の習性を利用する。温かいこもを土中と勘違いして越冬するという。春になって動きが活発になる啓蟄（来年は3月5日）までに取り外して焼却し、繁殖を防ぐ。

市によると、こもを編む業者の減少や材料

の高騰で、薬剤散布のみに切り替える自治体が多いという。冬を迎える風物詩になっているため、こも巻きを併用している。

市公園緑地課は「マツを大切にしたいという思いから続けている。冬支度をしたマツの様子を見て楽しんでもらいたい」と話した。

(内田杏実)



〔問①〕 マツの「こも巻き」はなんのためですか？

〔問②〕 こも巻きをすると、マツカレハはどうなりますか。

〔問③〕 最終的にこも巻きはどうなりますか。

〔問④〕 冬の風物詩といえば？ 思いつくものを書いてみよう。